

前橋市社会福祉審議会 第3回高齢者福祉専門分科会 議事録

◆ 日 時 令和元年11月21日(木) 午後2時30分～午後4時10分

◆ 場 所 前橋市役所 11階 南会議室

◆ <出席者> 10名(敬称略)

委員： 牛久保美津子 (群馬大学大学院)
長谷川亮輔 (群馬弁護士会)
仲道宗弘 (群馬司法書士会)
西野郁生 (前橋市歯科医師会)
塚田昌志 (前橋市社会福祉協議会)
山田彰子 (前橋市民生委員・児童委員連絡協議会)
角張桂子 (群馬県老人福祉施設協議会 中毛ブロック)
野中和英 (群馬県介護支援専門員連絡協会 前橋圏域支部)
武井謙介 (群馬県在宅福祉サービス事業者協議会)
三俣和哉 (群馬県地域密着型サービス連絡協議会)

<欠席者> 4名

橋爪洋明 (前橋市医師会)
矢嶋美恵子 (群馬県看護協会)
小俣登 (前橋市老人クラブ連合会)
桑原英真 (群馬県老人保健施設協会)

<傍聴者> 0名

◆ 議事内容 1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 第7期まえばしスマイルプランの取組状況について

- ①平成30年度介護保険事業の実施状況
- ②【課題1】 包括的なケア体制づくり
- ③【課題2】 地域における施設・住まいの最適化
- ④【課題3】 ケアマネジメントの質の向上と給付の適正
- ⑤ その他

(1) 特別養護老人ホーム入所申込状況調査の結果について

(2) ひとり暮らし高齢者調査の結果について

(2) 第8期まえばしスマイルプラン策定に向けた準備について

- ①ニーズ調査等の実施
- ②臨時委員の公募
- ③今後の策定までのスケジュール

4 その他

5 閉会

◆ 配布資料

- ・第7期まえばしスマイルプランの取組状況について

資料1 平成30年度介護保険事業の実施状況

追加資料1-II 総合事業の実績

資料2-I 【課題1】包括的なケア体制づくり

資料2-II 【課題2】地域における施設・住まいの最適化

資料2-III 【課題3】ケアマネジメントの質の向上と給付の適正化

資料3 特別養護老人ホーム入所申込状況調査結果について

資料4 令和元年度ひとり暮らし高齢者調査結果について

- ・第8期まえばしスマイルプラン策定に向けた準備について

資料5 ニーズ調査等の実施について

資料6 臨時委員の公募について

資料7 第8期まえばしスマイルプラン策定スケジュール(案)

- ・その他

平成30年度保険者機能強化推進交付金(市町村)に係る評価結果

1 開 会

吉野長寿包括ケア課長

- ・委員14名中10名の出席により本分科会が成立していることを報告
- ・会議及び会議録が公開であることを報告

2 あいさつ

(牛久保会長) 今年度は第7期まえばしスマイルプランの2年目にあたる。来年度から次期計画策定に向けて本格的に始動するので委員皆さんには忌憚のない意見をお願いしたい。

(高橋福祉部長) 次期計画策定にあたっては、国の社会福祉審議会介護保険部会で重点項目として挙げている、介護予防・健康寿命の延伸、保険者機能の強化、地域包括ケアシステムの推進、認知症施策の総合的な推進、持続可能な制度の構築を内容に盛り込むよう検討する必要がある。委員皆さんには、ご理解とともに本市の高齢者施策が市民本位のもとに円滑に適正に実施されるようご協力をお願いしたい。

3 議 事

(1) 第7期まえばしスマイルプランの取組状況について

- ・資料1から4までに基づき事務局から説明

<質疑等>

(三俣委員) 介護人材不足に伴い、群馬県内でも特養や地域密着型事業所の閉鎖、中止等が出ている。前橋市内の状況はどうか。

(事務局) 現時点で7期中に閉鎖等した施設系の事業所は無いが、12月1日から休止したいとの相談を1つの事業所から受けている。

(事務局) 介護人材不足について、実際に介護事業に携わっている委員から状況を教えてほしい。

(角張委員) 語学留学中の外国人をアルバイトとして簡単な業務を任せながら、どうにか運営している。

- (武井委員) 訪問介護、訪問入浴、通所介護のうち、特に訪問介護で人材不足に悩んでいる。訪問型サービスAと通所型サービスAの事業所数が2業者ずつ減少となっているが、人材不足が原因なのか。
- (事務局) 両方とも人材不足が原因。その他、訪問型のうち1つは利用者が少ないこと、通所型のうち1つは他事業へ転換が理由。
- (武井委員) 元々の事業所数が少ない中での減少傾向なので来年以降が心配。
- (事務局) 市としては、地域包括支援センターや事業所の意見も聴きながら、利用者負担の面も踏まえた出来高報酬の検討とともに、総合事業の制度周知を進めていきたい。
- (野中委員) ケアマネジャーの立場からの感想だと、ホームヘルパーが足りない。特養以外の施設では、人材不足により入居者を制限し、部屋を空けているところがあると聞いている。
- (角張委員) 特養の入所申込状況調査結果について、他の特養施設に重複して申込んでいる人も含まれた数字なのか。もし含まれているのなら、さらに申込者数は減少していると思うが。
- (事務局) 複数の特養への申込者は県、市町村で重複しないよう整理している。ただ、有料老人ホームなど、他種の施設への入所申込者数については整理できておらず、資料の「その他」に含まれている。
- (塚田委員) 社会福祉協議会の事業では、ケアマネジャー、ホームヘルパーともに不足している。ケアマネジャーは正規職員、嘱託員が各々半数ずつ。基本的にどの職種でも募集しても集まらない。報酬や勤務状態、勤務時間等の細かい部分に問題であり、双方にとって都合の良い状態で働くことは難しい。
- (事務局) 介護人材不足は重要課題として認識している。介護に関する入門的研修を実施する予定。まずは幅広く介護について関心、知識を持ってもらい、介護職について興味を持ってもらうという目的で実施する。今いる職員の負担軽減にも繋がる。また、今年8月の特養施設長との意見交換会でも人材不足が課題としてあがり、介護人材増加に向けて長期的な視点も必要ではないかという意見があった。小学生、中学生の中から介護職に関心を向けられるような取組みも必要と考えている。
- (牛久保会長) 介護人材不足は切実な問題。外国人労働者ばかりに頼ってはいけないと言う専門家もいる。例えば、ロボットやシニア世代を活用するなど方策は様々あると思うので、知恵を出し合い、働いている人が退職しなような仕組みづくりが必要。
- (牛久保会長) 在宅医療・救急医療連携ワーキングの方策について教えて欲しい。
- (事務局) 高齢者施設職員の救急の利用方法、終末期ケアの状況や課題などについて議論し、施設と救急隊員に対してアンケート調査を実施した。また、健康フェスタで前橋市医師会による市民公開講座を行い、施設関係者とともに市民への啓発を平行して進めている。さらに、救急搬送時における高齢者施設からの情報発信方法の統一、施設への啓発、研修なども進めていきたい。
- (牛久保会長) ひとり暮らし高齢者基礎調査結果について、調査件数と住民基本台帳上の件数はどのくらい違うのか。
- (事務局) その差はだいたい半分程度。住民基本台帳上のひとり暮らしの人は、施設に入所して住民票を移した場合に一人世帯になる。また、同じ家で生活していても住民票上は一人暮らしという人もいる。

(山田委員) 実際に住民基本台帳を基に調査をしているが、台帳上の約半数が実際のひとり暮らし高齢者数だと感じている。

(武井委員) 高齢者等見守りネットワーク静脈認証システムの平成 30 年度実績は 0 件だが、理由は活用できるケースが限定的だからか。

(事務局) 行方不明者が必ずしも静脈登録を行っているわけではない。裾野を広げることが必要であるため、平成 30 年度は登録者数を増やすことに力を入れたが、身元特定件数は 0 件だった。

(武井委員) 今後、登録者が認知症になった等のケース増えてくれば、実績も増加するのか。

(事務局) 現在、県警の実証事業として実施している。定期的に関係者間で効果・検証を実施。今後の事業継続等についても検討中である。

(事務局) 警察には、認知症等の行方不明者が発見された場合、市のGPS貸出制度への申請も勧められている。申請で市役所に来庁された際に、静脈認証も併せて行っている。しかし、前橋市で静脈認証により発見できたケースはこれまでに無い。

(武井委員) 静脈認証システムはどこにあるのか。

(事務局) 専用のタブレットで登録する。タブレット設置場所は、市役所長寿包括ケア課と、認知症疾患医療センターである老年病研究所附属病院と上毛病院、市内警察 2 か所。警察のタブレットのみ照合可。身元特定のため警察に行かなければ照合できない不便さ等があり、警察に行く前に近所への聞き込み等により身元特定されることも多く、照合につながらない状況にある。

(2) 第 8 期まえばしスマイルプラン策定に向けた準備について

・資料 5 から 7 までに基づき事務局から説明

<質疑等>

(塚田委員) ニーズ調査の対象や内容について、人材確保への取組みの材料になるものにする
と良いのではないか。

(事務局) できるかどうか考えたい。

(牛久保会長) 調査対象数はどのように算出されたのか。

(事務局) 国が示した手法に基づいて調査する予定。

(長谷川委員) 学生の臨時委員公募について、ホームページへの掲載だけでなく、大学関係者
らに働きかけてもらった方が集まりやすいと思う。

(牛久保会長) 応募多数の場合、どのような基準で選考するのか。

(事務局) 応募申込書への記載内容で判断する。

(西野委員) 学生の応募があった場合、申込書へ記載された意見や提案を分科会などで報告し
て欲しい。

(事務局) 意見等あった場合には報告したい。

4 その他

<次回の開催について>

(事務局) 次回は令和 2 年 3 月頃開催予定。詳細は後日お知らせする。

<質疑等>

(仲道委員) 生活支援体制整備について、次のプラン策定に向けて、地域にどのようなニーズ

があるのか、生活支援コーディネーターがなぜ少ないのかを分析して欲しい。

5 閉会